

### 3 爬虫類

#### 爬虫類相の概要

爬虫類は、古生代石炭紀に出現したとされ、完全に陸上生活に適応した最初の脊椎動物である。

体は角質の鱗でおおわれ、石灰質の殻に包まれた卵を陸上に産む。また、変温性で自分自身の代謝で体温を維持することはない。さらに、両生類と異なり幼生期から肺呼吸ができる。

岡山県では現在までに20種の爬虫類が確認されている。カメ目ではウミガメ科2種、イシガメ科2種、ヌマガメ科1種、スッポン科1種、カミツキガメ科2種、ヤモリ科2種、トカゲ科1種、カナヘビ科1種、タカチホヘビ科1種、ナミヘビ科6種、クサリヘビ科1種の計20種である。

岡山県は南から北に向かって、瀬戸内海、岡山平野、瀬戸内丘陵、吉備高原、中国山地と階段状に標高が高まっていく。南部は温暖で少雨、北部にいくにつれて寒冷で多雨となる。

岡山県のほぼ全域に分布するものとしてはクサガメ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、シマヘビ、ヤマカガシ、ニホンマムシが挙げられる。瀬戸内海ではごくまれにアオウミガメ、アカウミガメも確認されている。鳥しょ部にはタワヤモリ、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウなど一部の爬虫類が生息しているが、鳥ごとの生息状況については十分な記録が得られておらず今後の精査が必要である。また、近年のペットブームにより人為移入された外来種であるカミツキガメ並びにワニガメのカミツキガメ科2種が県内でも確認されている。中南部の岡山平野から吉備高原にかけての水域には帰化種であるミシシippアカミミガメが分布を広げ定着している。クサガメは広く確認されている。ニホンイシガメは主に岡山県東部エリアを中心に生息がみられる。ニホンスッポンは県中部から南部にかけて比較的広くみられる。さらに、人家周辺にはニホンヤモリ、ニホントカゲが多くみられるが、ニホンヤモリは交通網の発達に伴い、その一部が搬送される物資に紛れ込んで移動すると思われる、鳥取県境に近い県北部にも分布する。また、丘陵部や海岸付近の岩場や古い神社仏閣などにはタワヤモリが生息し、同所的にシロマダラもみられるが、両種とも生息地は局所的で個体数も限られる。中北部の吉備高原、中国山地の山林にはジムグリ、ヒバカリ、ニホンマムシなども多くみられる。さらに洞窟や森林内の林床には、局所的にタカチホヘビもみられるが個体数は多くない。

#### 選定種の状況

岡山県野生生物目録に掲載されている2目10科20種のうち、2目6科7種を絶滅の危機にある、あるいは今後の動向に要注目な種として掲載した。2009年の岡山県版レッドデータブック発行後新たに追加された種は、アオウミガメの1種のみである。幸いにも姿を消した種は見られない。加えて、爬虫類全体における生息基盤の脆弱さ、個体数の減少などを考慮・検討し、カテゴリーの見直しを行なった。

アオウミガメ・アカウミガメは、両種とも世界的に、また全国的に見ても保全の必要性が高い種であるが、県内での産卵は確認されておらず、目撃例も非常に少ないことから情報不足とした。ニホンイシガメは、河川改修や池沼開発、用水路の改修、業者やマニア捕獲による影響を受け、さらにはクサガメ・ミシシippアカミミガメの侵入による競合の影響などを受け個体数を減らしている。県内には広く分布するものの、特に県南部での減少は著しく絶滅危惧Ⅱ類とした。ニホンスッポンは国外から人為移入された外国産のものと、外国産と日本産の交雑したもの、あるいは、国内の他地域から人為移入された可能性のあるもの等が生息している可能性はあるものの、外見で見分けることは困難とされ、本書では一律にニホンスッポンとして取り扱ったが、それら

の事実解明や記録が少ないため情報不足とした。タワヤモリは海岸付近の岩場や南部の丘陵地から中部の低山地の露岩や、神社などの古い建物に生息するが、産地極限、道路工事、海岸開発などの影響を受け、生息地の消失とともに個体数も減少していることから現状維持の絶滅危惧Ⅱ類とした。タカチホヘビは、洞窟や主に針葉樹林内のやや暗く湿った林床のガレ場などで見つかり、比較的広く記録はあるものの生息環境に対する選好性が強く、生息地は飛び地的で森林伐採などの影響を強く受け、個体数も多くないことから絶滅危惧Ⅱ類とした。シロマダラは、タワヤモリと同様、山地から平野部にかけての石崖や露岩などを主な生息場所としているが、生息地は局所的で、林相変化、道路工事、交通事故、側溝転落などの影響を強く受け、個体数を減らしていることから絶滅危惧Ⅱ類とした。

なお、このたびのレッドデータブックの爬虫類の項について、一部に情報不足の種があることと、種の保護のため分布情報図については非公開とした。

(山田 勝・野嶋宏一・江田伸司)

**アオウミガメ***Chelonia mydas mydas* (Linnaeus, 1758)

カメ目 ウミガメ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

**選定理由**

砂浜の護岸工事に起因する自然海岸の消失や、海洋ゴミの誤飲、剥製・食肉目的の捕獲、卵の盗掘、漁網による混獲、砂浜付近に設置された人工照明による産卵行動への影響などにより個体数が減少している。岡山県内でも極めてまれながら死亡漂着個体が確認されている。



撮影：山田 勝

**形態**

アカウミガメよりも頭が小さい。甲長800mm～1000mm、体重70kg～230kgに達する。頭部吻端側に位置する前額板は1対(2枚)で大きく、他のウミガメ類との識別ができる。成体の腹面は黄色味を帯び、背面は茶褐色や緑や黒褐色など変異に富む。

**分布**

太平洋・インド洋・大西洋・地中海などの熱帯域～温帯域の海に分布する。日本では北海道周辺以外の日本近海にも広く分布するが、小笠原諸島、南西諸島、伊豆諸島などに多く見られる。日本での産卵地は、小笠原諸島や屋久島、種子島以南の南西諸島の砂浜に限られる。

**生息状況**

産卵は、4～8月の夜間に静かな砂浜に上陸し、一度に平均110個前後を複数回産卵する。約30日で孵化し夜間に海に入る。自然状態で性成熟するには20年前後を要すると言われている。岡山県内での確認例はわずかで決して多くない。

**関係法令の指定状況**

種の保存法による国際希少野生動物種に指定されている。

文献 金森他(2019)、岡山県(1980)、関(2018)、富田・松橋(2007)、内山他(2002)

(山田 勝・野嶋宏一・江田伸司)

**アカウミガメ***Caretta caretta* (Linnaeus, 1758)

カメ目 ウミガメ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

**選定理由**

自然海岸の消滅や観光地化による産卵への影響や、クラゲと間違えてビニール袋などの海洋ゴミの誤飲、漁網による混獲、卵の盗掘などにより個体数を減らしている。日本近海は北太平洋における本種の主要な産卵場所となっており、岡山県内でも極めてまれながら確認されている。

**形態**

甲長690mm～1030mm、体重70kg～180kgに達する。頭部は大きく頑丈で、特に下顎の発達が著しい。成体の背面は赤褐色で、腹面は淡い黄色であるが個体差が著しい。幼体はほぼ全身が黒褐色である。

**分布**

太平洋・インド洋・大西洋・地中海などの熱帯域～温帯域の海に分布する。日本近海では五島列島から与那国島沖にかけては比較的高密度で生息するが、主な産卵地は、関東地方から九州にかけての太平洋沿岸や南西諸島である。

**生息状況**

4～5月に交尾を行い、5～8月の夜間に静かな砂浜に上陸し、一度に100～120個を複数回産卵する。おおよそ50～75日で孵化し夜間に海に入る。岡山県内での確認例は非常に少ない。

**関係法令の指定状況**

種の保存法による国際希少野生動物種に指定されている。

文献 金森他(2019)、岡山県(1980)、関(2018)、富田・松橋(2007)、内山他(2002)

(山田 勝・野嶋宏一・江田伸司)

**ニホンイシガメ***Mauremys japonica* (Temminck et Schlegel, 1835)

カメ目 イシガメ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

**選定理由**

水質汚濁，河川改修，池沼開発，用水路改修，業者・マニア捕獲，側溝転落などに加え，クサガメの分布拡大とミシシippアカミミガメの侵入による競合の影響を受け，個体数を減らしている。

**形態**

雄の甲長は最大で140mm程度であるが，雌は210mmにも達する。背中のキールは幼体では3本であるが，成長につれ正中線上のものを除く2本は不明瞭となり，成体では1本となる。クサガメは終生3本であるところから本種と区別できる。背甲の色彩は黄色みないし赤みを帯びた褐色。また，背甲の後縁は鋸歯状となる。



撮影：山田 勝

**分布**

日本固有種で，関東・甲信越地方から西の本州・四国・九州と周辺の島に分布する。岡山県内においても分布域が徐々に狭くなっているようである。

**生息状況**

雑食性で，秋から春にかけて交尾し，6～8月に1～2回地面に穴を掘り4～10個の卵を産出する。孵化までに約2ヶ月を要する。平地よりも山間部や山麓部の湧水の出る池や，山あいの湖沼・水田・小川などに生息する。

**文献** 比婆科学教育振興会（1996），亀崎他（2017），金森他（2019），岡山県（1980），関（2018），富田・松橋（2007），内山他（2002）

(山田 勝・野嶋宏一・江田伸司)

**ニホンスッポン***Pelodiscus sinensis* (Wiegmann, 1835)

カメ目 スッポン科

●岡山県：情報不足 ●環境省：情報不足(DD)

**選定理由**

岡山県内での個体数は少なくないが，本来の自然分布や遺伝的な特徴などはよくわかっていないのが実情で，情報が不足している。水質汚濁，池沼開発，河川開発，用水路改修，業者・マニア捕獲などの影響を強く受ける。

**形態**

成体では甲長200mm～250mm程度のものが多いが，350mmに達する。甲は平たく，表面の甲板は消失し，柔らかな皮膚でおおわれる。鼻の先の肉質部がシュノーケルのように伸びており，水深の浅い水場や砂場などでは体を沈めたまま，鼻先を水面に出し呼吸する。



撮影：山田 勝

**分布**

本州・四国・九州および隠岐・奄美大島などの島にも分布する。岡山県内では，おもに中南部を中心に生息が見られる。

**生息状況**

6～8月にかけて8～50個の卵を産む。野外ではほぼ肉食で，貝類・甲殻類・水生昆虫に加え，両生類・魚類も捕食する。

**文献** 比婆科学教育振興会（1996），金森他（2019），岡山県（1980），関（2018），富田・松橋（2007），内山他（2002）  
(山田 勝・野嶋宏一・江田伸司)



**タワヤモリ***Gekko tawaensis* Okada, 1956

有鱗目 ヤモリ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

●環境省：準絶滅危惧(N<sub>T</sub>)**選定理由**

海岸周辺の明るい岩場や、南部の丘陵地から中部の低山地の林道法面の乾いた岩場、神社仏閣や古い建物などに生息するが、極めて局所的で個体数も多くない。産地極限、道路工事、海岸開発、林相変化などの影響を受ける。

**形態**

全長100mm～140mm、頭胴長は55mm～70mm。本種は胴の部分の鱗が均一で大型の鱗のないこと、また頭部が平たく模様が派手であることなどからニホンヤモリと区別できる。



撮影：山田 勝

**分布**

日本固有種で、和歌山県・大阪府・岡山県・広島県・大分県ならびに四国各県に分布する。岡山県内では、中部から南部にかけて記録があるが、瀬戸内沿岸部に多く見られる。現在のところ岡山県内で最も高緯度の生息地は美作市巨勢である。

**生息状況**

繁殖期は主に6～8月で、岩の隙間や建物の板の隙間などに2個産卵し、約2カ月で孵化する。岩場はシェルターとなるだけでなく、夜間も冷めにくいので熱源としても利用価値がある。夜行性であるが昼間に活動する個体もみられる。冬場は岩の割れ目などで集団冬眠するものもいる。主に昆虫類を捕食する。

**文献** 江木・山田(2007)、比婆科学教育振興会(1996)、金森他(2019)、岡山県(1980)、関(2018)、佐藤・益田(1994)、富田・松橋(2007)、内山他(2002)

(山田 勝・野嶋宏一・江田伸司)

**タカチホヘビ***Achalinus spinalis* Peters, 1869

有鱗目 タカチホヘビ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

●環境省：該当なし

**選定理由**

洞窟や主に森林内の林床などに局所的に生息し、森林伐採、林相変化、林道工事などによる生息地の乾燥化は致命的で、生息域は限定され個体数も多くない。

**形態**

全長300mm～600mm。頭胴長250mm～460mm。鱗はビーズ状で鱗と鱗の隙間は完全に重ならず、したがって乾燥や高温には極めて耐性が低い。鱗の表面は美しい虹色光沢を放つ。背面の正中線の上に暗色の線が走る。尾下板は2枚に分かれず、背面の鱗にはキールがない。無毒である。



撮影：山田 勝

**分布**

本州・四国・九州に分布する。岡山県内では一部南部にも生息するが、中北部を中心に局所的に分布する。

**生息状況**

基本的に夜行性で、主にミミズを捕食しているようである。昼間は地中に潜り目にする機会は少ないが乾燥や外敵から身を守っていると考えられる。スギ・ヒノキなどの植林地の間伐や伐採などの手入れが行われ、林床が明るく乾燥してくると確認できなくなる。5～7月に3～13個の卵を産出する。

**文献** 比婆科学教育振興会(1996)、金森他(2019)、岡山県(1980)、関(2018)、富田・松橋(2007)、内山他(2002)  
(山田 勝・野嶋宏一・江田伸司)

## シロマダラ

*Dinodon orientale* (Hilgendorf, 1880)

有鱗目 ナミヘビ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

### 選定理由

山地から平野部の石崖や岩場などに局所的に生息するが、個体数は多くない。

林相変化、道路工事、交通事故、側溝転落などの影響を受ける。

### 形態

全長300mm～700mm、頭胴長250mm～600mm。体型は細身で背面の地色は灰色、もしくは薄い茶色で、黒または濃いメタリックブルーの横帯が入る。胴体中央部の体鱗列数は17列で、アオダイショウの幼蛇が本種と誤認されることがあるが、背中中の模様はハシゴ状の横帯であり区別できる。無毒である。



撮影：山田 勝

### 分布

日本固有種で、北海道・本州・四国・九州ならびに周辺の島に生息する。岡山県内では、山際の住宅地の石垣や公園の石積みなどでも生息が確認されている。

また、山間林道沿いのわずかな露岩帯など、思いがけない場所で見つかることもある。

### 生息状況

6月から8月にかけて1～9個を産卵する。夜行性で小型なヘビであるため見つけにくいですが、日中に石垣の隙間から顔を出すこともあり、露岩の隙間などにタワヤモリと同所的に生息していることも少なくない。

**文献** 比婆科学教育振興会（1996）、金森他（2019）、岡山県（1980）、関（2018）、富田・松橋（2007）、内山他（2002）  
（山田 勝・野嶋宏一・江田伸司）

## 主な参考文献

- 江木寿男・山田 勝, 2007. 岡山県におけるタワヤモリとニホンヤモリの分布と生息環境, 岡山県自然保護センター 研究報告(14) : 1-7.
- 比婆科学教育振興会編, 1996. 広島県の両生・爬虫類, 163pp. 中国新聞社, 広島.
- 金森さりい・藤林 真・砂場千奈・亀崎直樹, 2019. 岡山県における両生爬虫類相, *Naturalistae*23-岡山理科大学 : 31-37.
- 環境庁編, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生動物－レッドデータブック－(脊椎動物編). 331pp. 財団法人 野生生物研究センター, 東京.
- 環境庁編, 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生動物－レッドデータブック－(爬虫類・両生類). 120pp. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
- 日本爬虫両棲類学会標準和名委員会, 2018. 日本産爬虫両生類標準和名リスト2019年6月26日版, 日本爬虫両棲類学会ホームページ.
- 岡山県編, 1980. 岡山県の両生・爬虫類. 92pp. 岡山県環境部自然保護課, 岡山.
- 岡山県編, 2009. 岡山県野生生物目録. 378pp. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- 岡山県編, 2010. 岡山県版レッドデータブック2009. 416pp. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- 佐藤國康・益田芳樹, 1994. 岡山県における2種のヤモリ類の分布, 川崎医会誌一般教(20) : 79-90. 川崎医科会.
- 関慎太郎, 2018. 野外観察のための日本産爬虫類図鑑 第2版, 212p. 緑書房, 東京.
- 富田京一・松橋利光, 2007. 日本のカメ・トカゲ・ヘビ, 256pp. 山と溪谷社, 東京.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎, 2002. 日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.